

# 海洋島

第5巻 第3号 (通巻40号) 東京都小笠原水産センター

2003年7月31日発行

〒100-2101 東京都小笠原村父島字清瀬

04998-2-2545 Fax. 04998-2-2546

## イシガキダイ稚魚の人工生産に成功

水産センターでは、シマアジやカンパチ、アカハタに続きイシガキダイについても稚魚生産技術の開発を進めてきましたが、今回初めてイシガキダイ稚魚の生産に成功しましたので概要をお知らせします。

イシガキダイは本州中部以南に分布し、小笠原諸島にも火山列島を含め生息していますが、小笠原では本種を対象とした漁業、遊魚は行われてきませんでした。ところが、数年ほど前からイシガキダイを狙った磯釣りが始まり、大型の個体が周年、安定的に釣れるようになり、一年間を通じて日本各地から釣り客が訪れるようになりました。水産センターでは小笠原島漁協所属の「仰天丸」からイシガキダイの提供を受け、一昨年からは採卵用の親魚に仕立てるために飼育をしてきました。



写真1:水槽内の親魚

本年4月22日の朝、いつものように親魚水槽の採卵ネットを点検したところ、たくさんの受精卵を発見し、小笠原で初めて本種の産卵を確認しました。卵は発生が進んでおり、産卵は前日の夜行われた模様です。採卵した卵は、1m<sup>3</sup>水槽3槽に3万粒ずつ収容して飼育を始めました。翌23日にふ化が起こり、ふ化直後の魚は全長3.5mm、卵のうを持ち、鱗もなく成魚とは大分違う形をしていました。ふ化3日目には卵

黄を吸収した仔魚がワムシを食べ始めました。全長が5.5mm位に成長したところでアルテミア(微小なエビの仲間)を与え、全長15mmからは配合飼料を給餌しています。その後、4月30日に産卵された受精卵も1m<sup>3</sup>水槽3槽に1~3万粒ずつ収容し、合計6水槽で試験を続けました。そして、全長20mmとなった6月2日と10日に稚魚の数を計数した結果、合計58,947尾が生き残っていました。生残率は平均39%、最高で50%にも達し、1水槽当たり約1万尾生産したことになり、海産魚の稚魚飼育成績としては非常に良い結果となりました。

イシガキダイの種苗生産は水産センターでは初めてでしたので、手探りの飼育となりましたが、今年の結果をみると、病気の発生や奇形魚の出現が少なく、比較的飼育しやすい魚種のように思えました。イシガキダイは活魚で出荷すると高値で取引される一方、磯釣りの対象としても人気があり、養殖用と放流用の2つの用途での需要が考えられます。現在飼育中の稚魚は、一部を成長試験に使い、大部分は8月以降、母島と父島の周辺に放流する予定です。



写真2:ふ化後29日目の稚魚